

良好な水資源の保全

水源地域の適正な利用と保全（１）（良好な水環境はまず水源地域から！）

大倉ダム、青下ダム貯水池は仙台市の水道水源であり、良好な水質の維持が求められています。このため、水源林の保全や貯水池水質保全対策を利水者、ダム管理者が一体となって進めていきます。

関係者 市民、水源林所有者及び管理者、仙台市、宮城県

期待される効果 ● 濁水の長期化が改善されます。
● 水源林の保全により安全で良質な水が確保されます。

実施方法 ①市民と一体となった水源地域の保全

● 流域開発の規制、水源保全に関する協定の締結

仙台市では、水道水源流域内に産業廃棄物処分場及びゴルフ場が設置される場合は、「水道水源保全に関する協定」を締結し、これらの施設からの放流水の水質監視や、定期的な施設状況の調査などを行っています。

● 裸地への広葉樹の植樹（濁水対策）

宮城県では、平成9年度から13年度にかけて、大倉ダム周辺の裸地10haへ広葉樹2万本の植林を実施しており、これらを適切に保全・管理していくとともに、今後も貯水池の水質監視を継続し、濁水の対策に努めていきます。

②市民と一体となった水源かん養林の維持管理

仙台市では、水道水源の保全を図るため青下ダム周辺とその上流に81haの水源かん養林を取得しています。今後この水源かん養林を適切に保全・管理して水源かん養機能の維持向上を図っていきます。



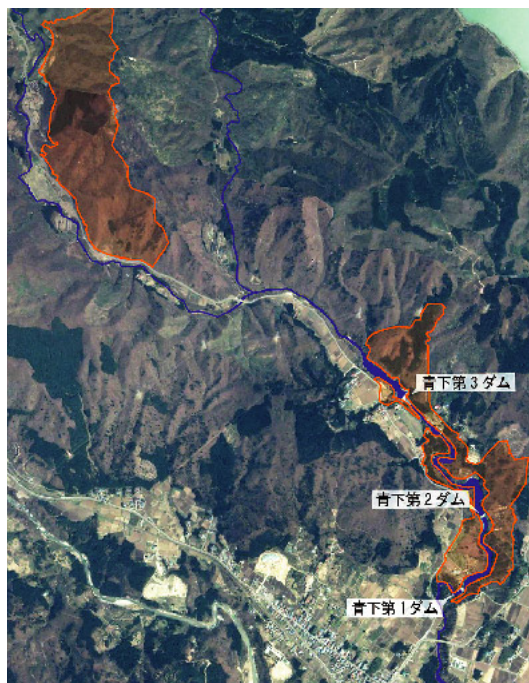
青下ダム貯水池



植樹前の裸地（平成9年）
貯水池の周辺には、濁水の原因となる土砂の堆積した裸地が点在していました。



植樹後1～2年
裸地部への植樹により、貯水池への土砂、濁水の流入軽減が期待されます。



青下ダム周辺の水源かん養林取得地区

水源地域の適正な利用と保全（２）（良好な水環境はまず水源地域から！）

釜房ダム貯水池は仙台市及び、周辺市町の上水道や農・工業用水などの水源として、良好な水質の維持が求められています。流域開発の規制、生活排水や家畜排水等の汚濁負荷の削減、廃棄物の不法投棄防止、貯水池水質保全対策を流域住民、利水者、行政が一体となって進めています。

この取り組みは、湖沼水質保全計画により昭和62年度より5ヶ年計画の第1期が開始されています。

関係者 流域住民、仙台市、川崎町、宮城県、東北地方整備局

期待される効果 ● ダム貯水池の水質が改善されます。
● 安全で良質な水が確保されます。

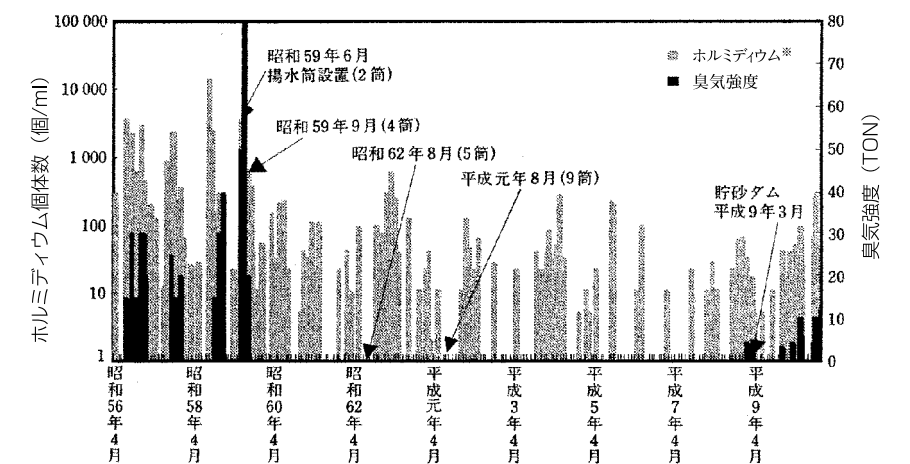
実施方法 ①釜房ダム貯水池での空気揚水筒による湖水曝気循環

昭和50年代に水道水に連続してカビ臭が発生しましたが、曝気循環施設（空気揚水筒）の稼働（昭和59年）後はカビ臭の発生を概ね抑えることができました。しかし、条件によってはカビ臭が発生する年もあり、関係者が連携して一層の水質改善に取り組んでいます。



空気揚水筒の設置場所

※空気揚水筒は、湖の中での水の流れを起こして、水質の悪化を防ぐための施設です。



※ホルミウムという植物プランクトンが作り出す2MBという物質がカビ臭い水の原因と考えられています。

出典：仙台市水道局

③第3期湖沼水質保全計画

第3期湖沼水質保全計画（平成9年度～平成13年度）では、流域住民の理解と協力を得ながら各種対策を段階的に実施してきました。

- 生活排水対策 （下水道（青根地区）の整備 など）
- 家畜ふん尿対策 （ふん尿処理施設の整備、処理施設の有効利用）
- 環境保全型農業の推進 （施肥量の適正化）
- 水質浄化 （農業排水路や、みちのく公園を活用した水質浄化）
- 水質監視 （水質監視の強化）
- 調査研究 （カビ臭発生機構の解明、自然浄化機能の研究） など

③これからの取り組み

現在、平成14年度から5ヶ年にわたる第4期湖沼水質保全計画の実施に向けて立案中です。